

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-224325  
(P2004-224325A)

(43) 公開日 平成16年8月12日(2004.8.12)

(51) Int. Cl.<sup>7</sup>

B6OR 21/22  
B6OR 21/055

F I

B6OR 21/22  
B6OR 21/055

テーマコード(参考)

3D054

C

審査請求 有 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2003-54910 (P2003-54910)  
(22) 出願日 平成15年1月27日(2003.1.27)

(71) 出願人 503080822  
三瓶 雅彰  
神奈川県鎌倉市大町3の7の8  
(72) 発明者 三瓶 雅彰  
神奈川県鎌倉市大町3の7の8  
Fターム(参考) 3D054 AA07 AA21

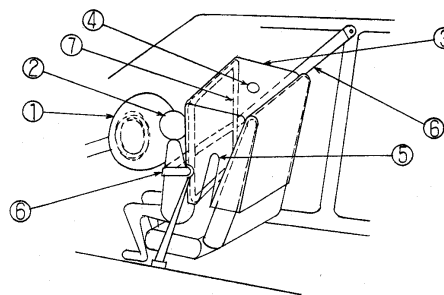
(54) 【発明の名称】 エアーバックに対するエアー枕による乗員の保護装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】自動車の前方衝突時、運転者は必然的に危険をさけるため急制動のブレーキを踏むことで、運転者も助手席の同乗者もシートベルトで支えられていても、前面に頭が突出して前傾姿勢にならざるを得ない。衝突と殆ど同時に作動するエアバッグの爆発力の反動によって、頭部が急激に後ろへ反り返り、ケイ部の骨折損傷又はケイ動脈の損傷及び切断によって死亡する事故が世界各地に見うけられた。

【解決手段】上記課題の人身事故を防ぐべく、今回のエアバッグに対するエアー枕による乗員の保護装置は、車の前面衝突をさけるための制動力による乗員の慣性移動及び乗員の自然体位移動によって、自動的にエア枕3が作られるように乗員とのシートベルト6と、骨材7入りエア枕3が乗員のヘッドレスト付き座席と一体となっているため、空気穴4及び空気取り入れ口5を付けて、自動的にエア枕3に空気を充てんする。

【選択図】 図2



前方衝突直後の側面図

**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

車輛の座席前面のエアバック作動で、乗員の体位移動により作られたエア枕で乗員を保護する装置。

**【発明の詳細な説明】**

車の衝突時には、乗員の重力による慣性移動が発生し、体位が前方に押し出され、乗員の頭部と座席のヘッドレストとの間隔が大きくなり、乗員頭部の前面でエアバックが炸裂した場合、頭部のみが後方に“く”の字に曲がり人間の首の骨は、前方の倒れよりも後方に反り返される方向の方が弱い、との医学的結果から、乗員のケイ部の骨折及びケイ動脈切断による死亡又は損傷を防止するため、乗員の慣性移動の力を利用したエア枕にて防止する目的で開発した。

10

**【図面の簡単な説明】**

【図 1】自動車を運転中に前方の障害物に対し、運転者が車のブレーキを踏むと必然的に慣性力が働いて、体位が前方に傾き、運転者と一体となっている 6 のシートベルト、3 のエア枕及び 7 の骨材が運転者と一体となって前方に傾くので、必然的に 4 の空気穴及び 5 の空気取り入れ口から、空気がエア枕に自動的に充填される。

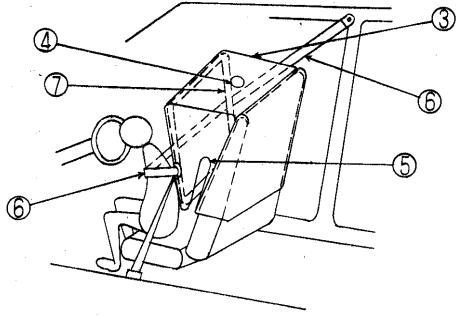
【図 2】車輛の前方衝突直後は 1 のエアバックが急膨張して、2 の乗員頭部を前方のハンドル等の突起物から保護するが、同時に 1 のエアバックによる急膨張は 3 のエア枕が無い状態においては、2 の乗員頭部は首から後ろえ“く”の字に反らして、首の骨を折ると共にケイ動脈をも切断され、死亡する事故を防ぐため 3 の

20

**【符号の説明】**

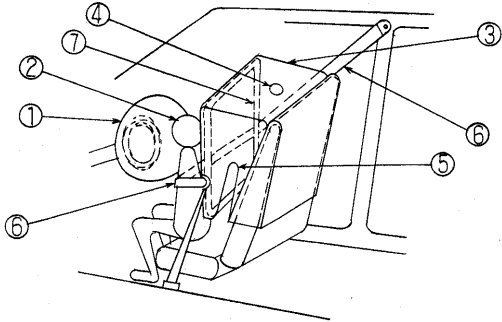
- 1 エアバック
- 2 乗員頭部
- 3 エア枕
- 4 空気穴
- 5 空気取り入れ口
- 6 シートベルト
- 7 エア枕の骨材

【 図 1 】



急制動中の側面図

【 図 2 】



前方衝突直後の側面図